

奇抜な化粧 文化の表現と表情？(ヴィジュアル系の顔：原因と影響)

johnathon john

千歳科学技術大学

【目的・背景】

原宿神宮橋コスプレは、日本国内外のメディアの注目を浴びて「日本の顔」を代表するまでになった若者サブカルチャーの驚くべき表現である。コスプレの原点となったのは日本のヴィジュアルバンドの衣装、ヘアースタイル、そして化粧であった。ロックバンドが奇抜な化粧をすることは日本国外では目新しいことではなく、またファンがバンドのスタイルを真似することも珍しいことではないが、神宮橋現象はそれ自体が独特で、ヴィジュアル系の流行は日本独自のものである。少なからず日本には歌舞伎、芸者、宝塚のような大衆文化に見られる eXtreme 化粧の伝統がある。これらの文化は熱心な 狂信的とも言える ファンの強い支持をこれまで、また現在も得ているが、そのうちのどれもヴィジュアル系の直接的に及ぼす影響は持たなかった。

私の研究の関心は、「顔」 肉体的かつ比喩的 の様々な局面にある。実際のところ「顔」は人間のディスプレイの他の局面から切り離すことはできないとしても、その現象の重要性を概括的に探り、そしてより詳細に eXtreme 化粧の伝統における意義を探求したいという思いに駆られた。

eXtreme 化粧の伝統の意義とは何か？

日本のヴィジュアル系はこの伝統の現れなのか？

神宮橋現象は日本人の自己表現における特性を示すのか？

日本人の顔、化粧、自己表現に関してどのような結論（もしあるならば）が導かれるのか？

【結果・考察】

これはいくつかの分野と時代に重なる複雑な問題である。簡潔に述べれば、

伝統的な芸者や歌舞伎役者の顔（奇抜な化粧を用いるフェイシャルディスプレイ法）は日本と日本人の象徴になってきた。そしてそれらは振舞や表現のある理想を表している。

そのルーツははるかに時代をさかのぼるが、これらの顔は江戸時代 特に「浮世」の思潮を匂わせている。

そのような理想や思潮は、身分、性、感情に関連してフェイシャルディスプレイ 表現と表情 の伝統を維持しながら現代日本の文化の精神に多大な影響を与えてきた。これらの伝統は「理想」の概念に基づいているように思わ

れる。

ヴィジュアル系の思潮は「浮世」の思潮と類似するものを多く示しているが、日本の若者のサブカルチャーは、フェイシャルディスプレイと自己表現の伝統を覆すためにそれを利用している。

ヴィジュアル系のコスプレは完全に「模倣」である。それでもコスプレをする人間による「自己表現」として見られる。

流行や出来事は、それが発生している間はその歴史的または社会文化的意義を評価することは不可能であるが、私の個人的意識として、ヴィジュアル系/コスプレ現象は変化の中での伝統を表している。